

豊岡市長

中

貝

宗

きました。 この間、常にこの言葉を胸に走り続けて 「未来への責任」。合併協議から市長 新「豊岡市」の初代市長への就任。

思います。 来世代のための努力を続けていきたいと とするならば、そのことに限りない感謝 を捧げつつ、今を生きる私たちもまた将 おける未来に向けた努力のおかげです。 私たちが今こうしてあるのは、過去に

本格的に動き出します。 いよいよ、新しいふるさと「豊岡市」が の熱い思いが、新市を誕生させました。 未来への責任を果たしたいという人々

厳しい財政状況

年の台風被害による災害復旧費も財政に 業に追われました。 国・地方を通じた厳 大きな影響を与えています。 自治体を追い詰めています。さらに、 を用いたとしても、構造改革の波は地方 しい財政状況のもとで、合併という手段 5月2日の初登庁以来、予算編成の作 昨

舵取りをしていかなければならないと決 意を新たにしています。 荒波に向かっての航海です。 しっかり

傷ついたふるさとの再生と 新生豊岡の指針の構築

します。 復と、進むべき航路の決定からスタート 新市の船出は、走りながらの船体の修

るさとをまず元の姿に戻すこと。そして、 という作業です。 まちづくりの基本的な方向を定めていく 昨年の台風によって傷ついた美しいふ

課題になります。 心な地域を構築していくことが最優先の れらを再生すること。加えて、安全・安 れた箇所もたくさんあります。まず、そ なふるさとの景色を大きく傷つけました。 道路が壊れ、橋が落ち、護岸や裏山が崩 を奪い、野山や田畑、小川といった大切 台風23号は、市民の『普通の暮らし』

うな方向性をもって進んでいけばいいの 地域像を描く必要があります。 見出さなければなりません。新生「豊岡 議論を基に、誰もが〝夢〟を感じられる 誇りに思えるふるさとにするにはどのよ 市」をどのようなまちにしていくのか、 同時に、私たちは未来への『希望』を 合併協議の中で積み重ねられてきた

対話と共感の市政を

そのためにも、「対話と共感」を市政

関わっていただくことを期待します。 います。 の新市を大切に育てていきたいと考えて 「対話と共感」の中で、生まれたばかり をわかりやすい言葉で具体的に語り、議 まいりたいと考えています。市は、 の方々の声をお聞きし、 市民の皆様にも、まちづくりに積極的に ″夢″を実感できる地域づくりを進めて 実現していけるよう努力します。 共感しながら、 施策

運営の基本に据えます。できるだけ多く

中貝新市長初登庁

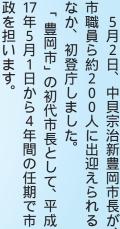
ティがあり、個性があり、それぞれに光 と確信しています。 て手を携え、光り輝く真珠のネックレス の輝きを大切にしながら、心を一つにし る真珠の粒があります。その一つひとつ にも負けないすばらしい地域になるもの につなげることができれば、きっとどこ 広大な新市には、数多くのコミュニ

じて。 出航の時。新生「豊岡市」の未来を信

新市長の横顔

兵庫県議会議員(平成3年~13年) 豊岡市下宮 豊岡市長(平成13年~17年) 兵庫県庁 京都大学法学部卒 (昭和53年) 入庁(昭和53年) 昭和29年生

なか、初登庁しました。





市職員から花束を受け取る中貝市長

初登庁式で職員に訓示